

平成30年度事業報告

平成30年度は、世間では「平成最後の……」という言葉がよく聞かれ、日産自動車のカルロス・ゴーン会長が背任罪で逮捕され、日本の司法が世界中から関心が注がれた。そして、私たち医療、福祉の分野では、診療報酬・介護報酬の同時改定が行われ、地域包括ケアに続いて、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）＝人生会議が浮上してきた年であった。そのような中、昨年5月の総会で承認された事業計画に基づき、円滑に事業活動を展開した。

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）については、協会としても3回の夜間講座で「アドバンス・ケア・プランニング・意思決定支援」をテーマとして取り上げ、会員への情報提供や課題を提起し、都民向けの公開講座においても「人生の後半を豊かに過ごすために～アドバンス・ケア・プランニングを知ろう～」というテーマで取り上げ、わかりやすく、正しい理解につなげる努力をした。また、「医療ソーシャルワーク」67号では、「意思決定支援について考える」という特集を組み、多くの方に執筆を依頼した。

東京都の委託事業である従来の「医療と暮らしの110番」という一週間連続した電話相談を、9月より「医療と暮らしのほっとライン」というネーミングで、月2回の定期開催に変更し、実施した。

平成30年度も、新人研修は通年、集中とも定員を大幅に超え80名近い受講者が集まり開催した。ただ、残念なことに、グループスーパービジョンについては、定員に達しないグループもあり、平成31年度は開催グループを縮小させることに繋がった。

医療福祉問題研究委員会の「ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い」は、8年間継続的に活動し、ステップアップの段階に来ている。他方、「MSWによるセクシュアル・マイノリティへの支援」と「患者申出療養制度」については、平成30年度でいったん活動を終了することになった。

災害支援対策委員会は、首都圏直下型震災への準備や他地域の震災支援が的確に行えるようガイドラインを作成し、会員に配布した

協会の運営資金である会費は、未納者が100名近くとなり、会費納入の確実性を検討し、平成31年度より銀行振替を実施することとし、委託業者選定等準備を行った。

その他、事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1. 一般社団法人として求められている要件整備に努めた。
2. 事業に関する会員の理解を深め、会員が主体的にかかわり、積極的に参加できるよう努めた。
3. 医療福祉関係の他団体との連携を深め、公益事業と社会活動を推進した。
4. 東京都及び都議会各派へ、医療福祉の向上のため要望書を提出した。
5. 協会活動の情報提供や会員の意見交流の場として、出版活動及びホームページの充実に努めた。
6. 講座・研修会を開催し、会員の専門性の向上に努めた。
7. 医療福祉相談事業の充実に努めた。
8. 医療福祉問題研究委員会活動の充実に努めた。
9. 広く都民に対する公益活動として公開講座を開催した。

I. 管理運営報告

- 1) 公益法人の要件整備に努めた。
 1. 公益法人の最高意思決定機関である社員総会への出席会員の増員に努めた。
 2. 協会事務所の事務局体制を週5日稼働し、会計処理をはじめとした各部理事体制における事務処理の流れを事務局にて処理した。
 3. 公益法人の原資である会費については、各ブロックの世話人と理事の協力で未納会員の納入促進を図り、財源確保に努めた

- 2) 公益性の高い公益（自主）事業の継続に努めた。
 1. 広く都民に対しての公開講座を開催した。
 2. 江戸川区医療福祉相談会を開催した。
 3. 西東京市医療福祉相談会を開催した。
 4. 葛飾区医療福祉相談会を開催した。
 5. 江戸川区神経難病検診を実施した。
 6. 豊島区医療福祉相談会を開催した。
 7. 医療関連12団体で構成する医療従事者ネットワーク連絡会を中心とした看護フェスタに「医療福祉の相談コーナー」を設置し、相談会を開催した。

- 3) 医療福祉向上のため都知事及び都議会各政党・会派に対し要望書を提出した。

- 4) 他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。

- 5) ブロック代表世話人会と地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会を定期開催し、各ブロックの活動を支援するとともに協会活動の活性化に努めた。

- 6) 広報活動
 1. ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。会員名簿の掲載を行った。
 2. 会員向けに「東京MSW」ニュースを発行し、内容の濃い企画、編集を行い情報提供に努めた。

- 7) 次の事業について東京都から受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。
 1. 地域巡回医療福祉相談事業
 2. 電話相談事業（医療と暮らしのほっとライン）
 3. 医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座
 4. グループスーパービジョン（4講座）

- 8) 求人求職について「ホームページ」に随時情報を掲載した。

- 9) 会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話人会を通じブロックに情報を提供した。

1 0) 相談会活動時に会員及び来談者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

1 1) 理事会、及びこれに準ずる活動時に参加者・出席者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

1 2) 会員の異動状況 (平成30年度)

	正会員	準会員	賛助会員	合計
入会者数	83	10	2	95
退会者数	115	26	2	143
現会員数	656	81	12	749

*平成31年3月31日現在

表1. ブロック活動状況

第1ブロック		第2ブロック	
4/5	世話人会	4/ 4	世話人会
6/8	世話人会	5/15	世話人会
		5/20	地域巡回医療福祉相談会 八王子市福祉まつり
7/7	地域巡回医療福祉相談会（清瀬市） ・講演会 「地域で安心して暮らすには？」 ～権利擁護と困ったときの病院選び～ 講師：加藤 則臣 氏 森川 かの子 氏 井上 孝義 氏 ・個別医療福祉相談会	6/15	2 B 情報交換会
		7/10	世話人会
		8/21	世話人会
7/28	勉強会「お見合い情報交換会」		
9/21	世話人会	9/20	世話人会
10/9	世話人会	10/17	世話人会
11/21	研修会 「病院・施設見学会 in 東村山」	11/ 7	研修会講師との打ち合わせ
12/7	世話人会	12/18	研修会「明日から使えるコミュニケーションスキル①」 講師：小林裕一郎氏
1/26	情報交換会	1/ 8	世話人会
3/28	世話人会（新旧世話人引き継ぎ）	2/19	研修会「明日から使えるコミュニケーションスキル②」 講師：小林裕一郎氏
		3/20	世話人会
世話人・運営委員	◎豊田弥穂（山本病院） ○太田亜寿美（一橋病院） ▲堀あゆみ（信愛病院） 齊藤翔（東京白十字病院） 大高愛美（佐々総合病院） 東麻紀（公立昭和病院） 吉田麻衣（東大和病院） 大西雄太（緑風荘病院）		◎武井純一（老健ぐらんぱぐらんま） ○大栗里沙（立川相互病院） ▲田原真理子（羽村三慶病院） 浅古美絵（東海大学八王子病院） 西村裕子（大久野病院） 富士川泰裕（康明会病院）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

第3ブロック		第4ブロック
4/11	世話人会	4/26 世話人会
5/23	世話人会	5/27 地域巡回医療福祉相談会
6/21	世話人会	7/11 世話人会
7/ 4	情報交換会 「先輩に聞きたいこと！後輩に伝えたいこと！！」(東京警察病院)	8/7 見学会：井上病院（一般・療養病棟）、井上クリニック（有床診療所、訪問診療）、サービス付き高齢者向け住宅の見学
7/25	世話人会	8/7 情報交換会
8/21	世話人会	10/12 世話人会
9/10	世話人会	
9/26	世話人会	
10/15	世話人会	11/15 見学会：救世軍ブース記念病院（一般病棟・療養病棟・緩和ケア病棟）見学
10/24	研修会 「現役の生保CWの方々と語り合おう！」(福祉財団ビル) 板橋区板橋福祉事務所保護第5係 横田敏氏、板橋区赤塚福祉事務所総合相談係 松尾三千香氏	11/15 情報交換会
11/8	世話人会	1/30 世話人会
11/30～		
12/1	地域巡回医療福祉相談会 (板橋区立グリーンホール) 「いたばし健康まつり2018」	
12/2	豊島区医療福祉相談会 (豊島区役所本庁舎)「豊島区健康展(ふくし健康まつり)」	3/9 研修会：「ソーシャルワーカーによる退院における実践の自己評価」 講師：高山恵理子先生
12/26	世話人会	
2/6	世話人会	
3/1	情報交換会	
4/2	世話人会・新旧世話人引き継ぎ	
世話人・運営委員	◎砂原聡子（豊島病院） ○小山百合子（中野共立病院） ▲松本映里子（高島平中央総合病院） ▲佐藤三史郎（小豆沢病院） 斎藤歩美（自宅） 佐藤佳奈（日本大学医学部附属板橋病院） 山井はるか（東京警察病院）	◎飯島大樹（永寿総合病院柳橋分院） ▲河副春美（三井記念病院） ▲小林めぐみ（悠翔会在宅クリニック新橋） 青田薫枝（順天堂大学医学部附属順天堂医院） 阿部靖子（東京医科歯科大学医学部附属病院） 菊池桃（東京女子医大東医療センター） ○小川絢多（東京医科大学病院）

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第5ブロック		第6ブロック
5/9	世話人会	5/17 世話人会
6/14	世話人会	7/5 世話人会
6/22	研修会「任意後見人制度について」江戸川区安心生活センター所長 吉田悦子氏	7/10 名刺交換・情報交換会
7/1	江戸川区医療福祉相談会 (江戸川区医師会館)	9/6 世話人会
7/27	世話人会	
7/27	ブロック会 新人歓迎会	
9/8	地域巡回医療福祉相談会 足立区民健康まつり (足立区役所)	10/7 地域巡回医療福祉相談会 世田谷区雑居まつり (羽根木公園)
9/20	世話人会	
9/28	研修会 「医療を受けるうえでのお金の話」 (高額療養費制度等) 江戸川区健康部医療保険課国民健康保険給付係長 中村智市氏	
11/24	江戸川区介護フェア (相談会)	11/1 世話人会
11/29	世話人会	11/10 見学会 「初台リハビリテーション病院」
2/1	ブロック会 「情報交換会&臨床心理士講演会」 癌研有明病院 臨床心理士 宮崎加奈子氏	1/10 世話人会
		2/13 研修会「相談支援専門員と考える」 (社福) せたがや檜の木会相談支援センターあい所長、相談支援専門員中川邦仁丈氏、(特非) 自立の家かりんとう相談支援専門員小松美穂氏
3/15	研修会 「障害年金について」 社会保険労務士 中村美恵子氏	3/7 世話人会・世話人引継ぎ
世話人・運営委員	◎上田美佐江 (がん研究有明病院) 杓澤郁子 (水野記念病院) ○笹本千壽子 (東京東病院) ○加藤大介 (東京東病院) 須藤純子 (京葉病院) 倉知志帆 (苑田第三病院) 弘永幸子 (かめいど在宅診療所)	◎中川知香子 (東京ちどり病院) ○飯田勝利 (ケアプラン田園) ▲○石山千恵 (田園調布中央病院) ▲坂本真緩 (都立広尾病院) ▲佐藤彩子 (上町あんしんすこやかセンター) ▲南大路直子 (team shien m.a) 北浦早紀 (河北総合病院) 相沢卓 (初台リハビリテーション病院) 堀内萌生 (初台リハビリテーション病院)

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第7ブロック	
4/13	世話人会
5/16	世話人会
5/17	ブロックニュース発送
6/22	名刺交換会
7/18	世話人会
8/23	世話人会
9/7	ブロックニュース発送
10/18	世話人会
10/27	研修会（事例検討）
11/19	世話人会
12/2	地域巡回医療福祉相談会 （調布市）・世話人会
12/17	ブロックニュース発送
1/25	情報交換会
2/9	施設見学会 ※雪のため中止
3/26	世話人会
世話人・運営委員	◎青松貞光（吉祥寺南病院） ○山田ゆう子（武蔵野赤十字病院） ▲後藤史帆（杏林大学医学部附属病院） ▲横尾めい（多摩丘陵病院） ▲清水千秋（都立神経病院）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

II. 各事業報告

【定款第1号事業】

1) 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

1. 地域巡回医療福祉相談【受託事業】

地域巡回医療福祉相談は、各ブロックの運営委員会を中心に実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年7回実施した。

日程		開催場所	相談件数	特別企画
1	7/7 (土)	清瀬市生涯学習センター	3	講演会及び相談会 (講演会34名、アンケート10件)
2	5/20 (日)	八王子市	16	八王子市福祉まつり (アンケート20件)
3	11/29 (木) 11/30 (金)	板橋区立グリーンホール	24	いたばし健康まつり (アンケート124件)
4	5/27 (日)	港区芝公園	6	みなと健康まつり (アンケート27件)
5	9/8 (土)	足立区役所	2	足立区民まつり (アンケート24件)
6	10/7 (土)	世田谷区羽根木公園	16	雑居まつり (アンケート100件)
7	12/2 (土)	調布市駅前広場 (調布社協)	4	調布市福祉まつり (アンケート47件)

2. 電話相談 (医療と暮らしのほっとライン)【受託事業】

平成30年9月より月2回、電話相談を実施した。件数については、下記表中に含まれる。

地域巡回医療福祉相談と電話相談の相談内容と件数

事 項	面接	電話	文書	計
病気から派生した本人家族の社会生活上の問題	15	4	0	19
病気又は治療の障害となっている心理的不安等精神的問題	9	7	0	16
病気又は問題の要因となっている患者の家族関係やその他の対人関係の調整	10	4	0	14
治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制度の利用斡旋	22	7	0	29
医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題	24	17	0	41
看護や療養・生活指導をめぐる問題	16	6	0	22
退院後の社会生活への復帰をめぐる問題	9	4	0	13
その他医療福祉に関する相談	19	4	0	23
合 計	124	53	0	177

3. 公開講座【自主事業】

平成30年12月8日（土）、Three Eight Nine MITAKA（三鷹市）にて東京都健康長寿医療研究センターの島田千穂先生を講師に迎え「人生の後半を豊かに過ごすために～アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を知ろう～」都民向け公開講座を開催した。癌だけでなく、老衰、心不全、呼吸不全、認知症などで亡くなる人が増えていくこの先に、自分や近しい人たちの希望や思いを普段から事前に話し合う機会を持つことから始めてみましょうということでツールや方法の一つを教えて頂き参加者も行ってみた。ACPの考え方は、本人がどう生活したいのかというところに、価値観を落とし込んでいくことであるとお話し頂いた。

4. 難病検診への参加協力

（1）東京都難病相談・支援センターについて

同センターは、難病患者さんの日常生活における相談を受け支援を行い、また地域交流や活動を行う拠点として、患者さんの療養を支えるために設けられている。

（2）難病無料医療相談会について

難病無料医療相談会は東京都から委託を受け東京都難病相談・支援センターが実施している。平成30年度は、8回の開催となった。相談申し込みは、完全予約制となっており、難病相談・支援センターが受け付けている。相談会の内容は、専門医が一件20分を目安に個別に来所者（患者・家族）から医療に関わらず生活面等、様々な相談に応じている。

（3）ソーシャルワーカーの役割について

当協会では、難病無料医療相談会に毎回2～3名のMSWの派遣に協力し、専門医と面接前の事前面談を担当している。平成30年度においてもMSWは、医師との面談の前に来所者の相談内容を確認し、20分という限られた医師との面談を有効に使えるように関わった。また、生活に関わる相談の内容には個別に相談に応じた。

①日 時：平成30年5月20日（日） 11：00～16：30

対象疾患：パーキンソン病

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）、
吉野あやか（東邦大学医療センター大橋病院）

来談者：27名

②日 時：平成30年6月9日（日） 11：00～16：30

対象疾患：天疱瘡ほか

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）

来談者：6名

③日 時：平成30年7月22日（日） 11：00～16：30

対象疾患：脊髄小脳変性症ほか

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）

来談者：25名

- ④日 時：平成30年8月26日（日）11：00～16：30
対象疾患：リウマチ
協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）
来談者：9名
- ⑤日 時：平成30年10月28日（日）11：00～16：30
対象疾患：遺伝相談
SW協力要請無し
- ⑥日 時：平成30年11月18日（日）11：00～16：30
対象疾患：全身性エリテマトーデス
協力SW：井上孝義（信愛病院）、平井隼人（西東京中央総合病院）
富士川泰裕（上板橋病院）
来談者：22名
- ⑦日 時：平成31年1月20日（日）11：00～16：30
対象疾患：多発性嚢胞腎
協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）
来談者：15名
- ⑧日 時：平成31年2月24日（日）11：00～16：30
対象疾患：原発性胆汁性胆管炎ほか
協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）
来談者：15名

5. 地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、清瀬市、豊島区の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場として、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。相談会のより一層の充実を図り運営事務手続きを整備し、各ブロックでの活動の支援を行った。

6. 江戸川区医療福祉相談会【自主事業】

平成30年7月1日（日）、江戸川区医師会会館にて第40回江戸川区医療福祉相談会を、医師会、江戸川区の後援を受け、多職種とともに開催した。MSWによる病院機能のミニ講座を行った。平成30年11月24日（土）、江戸川区介護フェア相談会を行った。実行委員として司法書士・社会福祉協議会とともに中心となり相談会を開催した。平成31年1月31日（木）、2月18日（月）に江戸川区医療福祉連絡会を江戸川区と共に企画開催し近隣医療機関のMSWと区内地域包括支援センター、介護保険課相談員と共に「高齢者虐待における養護者支援」について講義とグループワークを行った。これらの活動を通じて、MSWと行政、医療機関等との連携が強化され、地域福祉活動に寄与している。（相談件数は順に11件、30件）

7. 葛飾区医療福祉相談会【自主事業】

平成30年11月18日（日）かつしかボランティアまつり、平成31年3月2日（日）葛飾区パルフェスタにて、区の協力のもと相談会活動を行った。相談会を通じて、地域との関係性を深めている。（相談件数は順に23件、11件）

8. 西東京市医療福祉相談会【自主事業】

平成30年6月23日（土）田無総合福祉センターにて、地域の民生委員を対象に病院機能についての相談会を行った。地域包括支援センターの職員の参加もあった。平成31年2月16日（土）地域包括支援センターむけ勉強会を開催し、「西東京市におけるこれからの介護と医療の地域連携を考える～2018年度診療報酬改定に伴う地域連携における影響について」講義とグループワークを行った。

9. 豊島区医療福祉相談会【自主事業】

平成30年12月2日（日）豊島区ふくし健康まつりにて、薬剤師会主催の健康展の中に相談ブースを設置し、個別相談を行った。（相談件数15件）

10. 江戸川区神経難病検診

江戸川区・区医師会主催、(社)東京進行性筋萎縮症協会後援の江戸川区神経難病検診について、当協会が参加協力の依頼を受けている。今年度は、10月14日（日）江戸川区医師会館にて開催され、MSW2名を派遣し医療福祉相談に対応した。

11. 災害支援活動【自主事業】

大震災発生から8年を経過した現在も、被災された方々において健康問題や生活の場の喪失、孤立化など医療や福祉に絡む様々な問題が生じている。よって、今後も震災支援の継続が必要と考える。

一方で近年、全国各地において震災や台風、噴火など様々な自然災害が頻発している。

都内近郊においても、南海トラフや首都直下型地震、風水害、大事故など、今後大きな災害が起こり得ることを常に意識していかなければならない。

被災者への支援、都内の災害支援対策の確立を目指し、平成30年度は以下における活動を行ってきた。

(1) 支援活動の運営

東日本大震災以降、当協会内に「災害支援対策委員会」を発足。定期的に活動の打ち合わせを重ね、今年度は計12回開催している。

委員会の構成メンバーは、三役、各部理事、活動に賛同する一般会員である。協会内に委員会を設置することにより、平成23年以来、継続的な活動を図ることが可能となっている。

(2) 被災者への支援

①大阪府北部地震（6月）、平成30年7月西日本豪雨（7月）、北海道胆振東部地震（9月）など、全国各地で頻発した災害時において、派遣支援の必要性も含め日本医療社会福祉協会や関東の他県MSW協会、被災県MSW協会、東京都社会福祉協議会など、多団体・多機関との情報共有や連携に務めた。

- ②今年度より常設となった「医療と暮らしのホットライン」のチラシを、東京都避難者支援対策部を通じて都内に避難された方々全世帯に配布するなど広報に務め、被災者の相談にも応じた。
- ③平成31年3月17日に飯田橋セントラルプラザにて「広域避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」が開催され、都内及び関東各地より大勢の避難者が参加された。当協会も会場内に相談ブースを設置し、避難された方々の相談に応じた。
- ④その他、避難者交流会や広域支援ネットワーク等に参加し、各関係機関や団体と連携を図り、避難者支援を行った。
- ⑤東京都への直接要望を実施、「広域避難者の総合的支援の継続」「災害時の福祉支援の協働の充実」について要望を提出した。
- ⑥「子どもの甲状腺検診」(生活協同組合パルシステム東京主催)へのMSW派遣を受託、平成30年11月24日、12月8日、9日の計3回、受診者へのアフターフォローの相談窓口に会員を派遣し、相談支援を行った。

(3) 防災・減災対策

- ①首都圏直下型震災への準備や他地域の震災支援が的確に行えるようガイドライン・規約を作成し、各理事や協会会員に配布した。
- ②災害時の業務継続に備え、郊外のサテライトオフィスとの契約・データの保管を継続している。
- ③東京都社会福祉協議会主宰「災害福祉広域支援ネットワーク推進委員会」に参画。東京都や各専門職団体と、災害時における福祉支援に関する協議を図っている。平成30年11月13日に伝達訓練、20日には図上訓練が開催され、当協会も参加した。
- ④理事間の災害時伝達訓練(平成30年4月14日、19日)の実施、理事と災害支援対策委員会のメンバーと合同にて初の災害時想定訓練を平成30年10月19日から20日にかけて実施し、災害時における協会組織としての対応力向上に務めた。
- ⑤平成31年度完成予定の別冊「つたえる」3号に関して、内容の検討・作成に務めた。

(4) 会員や関係機関・団体への教育及び広報、協働活動

- ①災害支援ニュース「つたえる」を定期的に発行することにより、会員や外部に向けて、災害支援の継続的な必要性のアピールを行った。
- ②別冊「つたえる」第1号(平成25年6月出版)・第2号(平成29年3月出版)に関して、関係機関への配布に務めた。
- ③東京MSWニュースにて、災害支援対策委員会の活動報告を随時掲載した。
- ④災害支援対策ワークショップとして、振り返りや意見交換の場として「振り返り会」の実施(平成30年8月31日)、避難所運営ゲーム「HUG」体験研修(平成31年2月16日)、サテライトオフィス見学(平成31年3月30日)を実施した。
- ⑤災害時派遣支援登録シート配布に務めた。
- ⑥教育・啓蒙活動として、第37回日本医療社会事業学会(香川県)にて、「災害支援対策委員会の意義と課題～発足から7年目を経て～」の演題名にて、当協会の活動について発表した。
- ⑦災害関連の学会やシンポジウム、会合などに積極的に参加することにより他職種・他団体との交流や連携、情報交換に務めた。

以上、各関係機関や他県のMSW協会と交流・連携を深めながら、協会全体の協力体制の強化に務めた。

【定款第2号事業】

2) 会員の専門知識・技術の向上に関する事業

1. 講座【自主事業】

平成30年度は、「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）・意思決定支援」を年間テーマとして計3回の夜間講座を開催した。アスベスト被害当事者である栗田英司氏、弁護士の木下正一郎氏、同じく弁護士の冠木克彦氏を講師に迎え、夜間3回を通じて意思決定と法律制度とその課題などについて講義を頂いた。

第1回は、平成30年9月5日に渋谷区の家庭クラブ会館ホールにおいて、「当事者の生の声を聴く・アスベスト関連疾患について」と題して、当事者の栗田英司先生にご講演いただいた。

受講者は35名で、「過去になっていたアスベスト被害から、問題が現在もなお継続している視点を学んだ」、「普段の業務における患者さんの発見につながる」、「相談が終結となった後も何十年と経た後に影響が出ていることを知られてよかった、アスベスト問題を見直す機会となった」、「患者・家族の会が時間をかけて法制度に立ち向かい、獲得してきた歴史を知られてよかった」、「当事者の意思決定で、様々な社会支援を生み出した背景に感動した」、等の感想が寄せられた。

第2回は、平成30年12月6日に渋谷区の家庭クラブ会館ホールにおいて、「法制度から見た意思決定支援」と題して、人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインについての解説等、SWが知っておくべき法制度について、弁護士の木下正一郎先生からご講演いただいた。

受講者は71名で「書面は説明と同意の証拠には、過失故意の免責にはならないと知られてよかったです」、「一回で終わるのには、もったいない内容。2回3回と掘り下げて聞きたい内容だった」、「医療事故調査の内容は、他機関で高額な費用を払って受けた内容だったので、今後もっとやってもらえるとうれしい」、「病院側ではなく、患者家族からの相談を受けることも多いので、その際の活用方法、対応方法も是非教えてほしい」、「人生の最終段階におけるケアガイドラインが読めて大変良かった」等の感想を頂いた。

第3回は、平成31年3月6日に渋谷区の家庭クラブ会館ホールにて「いまなぜ終末期及び事前指示書なのか」と題して、弁護士の冠木克彦先生にご講演いただいた。

受講者は46名で、「とても衝撃的な研修だった、私自身日々の支援で安易に扱われるDNRに疑問をもつこともあり、考えさせられた」、「クライアントの話をよく聞き、本心はどこなのか？ということをもっと理解した上で判断していくことが必要だと感じた」、「世の中の流れに流されず、立ち止まって考える必要があると思った、いろんなことが考えさせられた」、「できればシンポジウムを含む研修にしたほうがよいテーマだった」等の感想を頂いた。

この夜間講座は、公益社団法人日本医療社会福祉協会の認定医療社会福祉士申請のためのポイント対象の講座である。今年度も非常に受講生も多く盛況な会となった。今後も協会の興味を引くようなテーマの選定や、利便性のよい会場の選定など、取り組んでいき

たい。

2. 研修会 ※講師 敬称略

(1) 新人研修【自主事業＋一部受託事業】

平成30年度も通年コース（2時間20回）と集中コース（2時間6回、7時間2回）の2つのコースを設定した。会場は、通年コース・集中コース共に家庭クラブ会館を利用して開催した。

受講生募集方法に関して郵送での申込み形式をとったが、今年度も申し込み者数が定員を上回る状況となった。

通年コースが40名定員のところ申し込み数が51名、集中コースも20名定員のところ25名の申し込み数となり、いずれも定員を超える人数となったが、講師への相談や会場の状況の確認をした上で、申し込み者全員を受け入れ開講した。通年コースの修了証45名、皆勤賞は7名に、集中コースの修了証は18名、皆勤賞は11名に発行した。なお、例年同様、前年度の受講生に協力員として参加を依頼した。

また、今年度も受講生に講義内容の振り返りとして毎回「気づきと感想」を提出してもらったが、今年度からフォーマットを見直した。今後の研修内容の検討材料として活用し、来年度の研修に反映させたい。

- 【講師】 武内 昶篤（東京都医療社会事業協会副会長）
樋口 昌彦（至誠会第二病院）
仲谷 美恵子（森山記念病院）
平岡 久仁子（帝京平成大学）
加賀 佳子（よつばサポートオフィス）
柴田 礼子（順天堂大学医学部附属練馬病院）
小嶋 章吾（国際医療福祉大学）
小松 美智子（武蔵野大学）

(2) グループスーパービジョン【受託事業】

①Aグループ

【講師】 古屋 龍太（日本社会事業大学大学院）

毎月第3または第4水曜日に受講生9名で東京芸術劇場にて開催された。

昨年同様に、事例提供者が事前に文字列でまとめる印刷資料は配布せず、全て言葉でやりとりを行い、先生はその内容をホワイトボードを使用してまとめていくスタイルが進められた。受講生は事例提供者に質問をし、事例に肉付けを行っていき、事例提供者は事例と事例提供者との関わりのプロセスとストーリーを確認しながら、自身の関わりや想いを言語化する。他の受講生からの視点で発せられる言葉に耳を傾け、再度事例の整理を行い、最後に励ましの言葉をもらい終了していく。受講生からは「月に1回支援の振り返りをすることは、忙しい日々の業務にあって、落ち着いて学べる貴重な時間でした。古屋先生のお話を伺い、生きづらい方にどのように寄り添っていけばよいのか、そして自分(MSW)もどのように大切にしていけるのか学べたように思います。」「日々の仕事で、自分のケースを振り返る機会がなかったので、GSVを通して今までの関わりに対して考える良い機会となった。また、同じくらいの年数のMSWと思いや悩みを共有できる場となった。」「支援でモヤモヤしたことや、今後の対策を明確化することが出来た。」という意見があり、満

足度の高い講座であったことが伺える。

②Bグループ

【講師】石井 三智子（日本社会事業大学 非常勤講師）

7名の受講生が参加し、原則毎月第4木曜日に家庭クラブ会館と、数回東京芸術劇場を使用して開催された。初回はオリエンテーションを行い、2回目以降は受講生からの事例提示と全体での事例討議および講師からの文献を用いた講義、中間と最終回は講師からのまとめと振り返りという形で、計10回開催した。受講生の経験年数は1～3年であった。受講生からは、「大体同じ経験年数の受講生同士で事例検討していくため、共感を得られることはもちろん、自分が持っていなかった視点も養うことができ、明日からの業務に役立つ貴重な時間でした」「ずっと悩んでいたケースを振り返り、メンバーの意見を聞くこと、先生の意見を聞くことで何に悩んでいたのか、なぜ悩んでいるのかが明確になる。また違った視点でケースに向き合うことができた」「一人のケースに対して全員で検討する機会をもてて、様々な機関のSWの視点から意見を頂けたので、貴重な経験となりました」等、受講生からは高い満足度が得られた。

③Cグループ

【講師】朝比奈 朋子（東京成徳大学）

原則毎月第3月曜日に受講生7名が参加し、家庭クラブ会館にて計10回が開催された。初回は「生活の仕組み」について講義があり、2回目以降は、担当受講生より提出された事例を基に、生活アセスメントシート」を用い、「身体・医療」「心理・社会」「経済・制度」の側面を時系列で整理しつつ、他受講生からの質問や講師からの視点の投げかけを加え、クライアントの共感的理解を目指し、グループスーパービジョンが展開された。参加した受講生からは、「生活アセスメントの理論・方法を学ぶことが出来た。根拠を持ったアセスメントを行うために、どのような情報が必要かを知り、その方の生活を具体的に把握することが支援の質を高めていくことに繋がると感じた」「自分一人ではなかなか気づかない点がグループスーパービジョンを受けることでクリアになることも多く、是非受講をお勧めしたい」などのコメントがあり、講義内容に対しても満足度が高かった。

④Dグループ

【講師】助川 征雄（聖学院大学）

毎月第3金曜日に受講生5名で家庭クラブ会館にて開催された。4年～13年程度と幅広い経験年数の受講生が集い、毎回、担当受講生より提出された事例について、受講生皆による対応方法の検討や振り返り、講師からの視点の投げかけや理論的助言を加える形で、支持的な関わりを中心としたグループスーパービジョンが展開された。受講生からは、「自分自信の振り返りのきっかけとなるので是非参加をお勧めしたい」、「何年経っていても仲間と振り返り、専門性の点検は必要だと思った、自分の人間性も豊かになった」、「人生の主人公は本人、アナログ的で人間的なかわりを大切に」という先生の言葉を忘れず、心に留めながらクライアントと向き合っていきたい」などのコメントが聞かれ、とても高い満足度が確認できた。また、「集まったソーシャルワーカーの業務の状況など、現状を話す機会があると良いと思った」など、業務状況分かち合う機会が欲しいという意見もあった。来年度は、さまざまな経験年数の受講生同士が円滑な意見交換が出来るよう工夫を

図っていく。

(3) スーパーバイザー養成講座【自主事業】

【講師】福山 和女（ルーテル学院大学）

13名の受講生が参加し、毎月第3火曜日、全8回、家庭クラブ会館にて開催された。日常のスーパービジョン活動の中での疑問点、困難点、できていることの妥当性の証明が行われた。講座終了後のアンケートでは、回答者のほとんどが講座の内容について「とても良かった」と回答、「組織で働く人間としてどう考えるか、どうシステムをつくっていくか、という視点をもてるようになり、一年間とても支えられた。」「スーパービジョンとは何なのか？バイザーの概念・具体的な声かけの方法、スーパーバイザーとしての認識のずれ等を修正して頂き、目から鱗の落ちる講義でした。」「枠組みを超えて、スーパーバイザーとしての後輩指導のスキルや業務管理の多角的な視点、ソーシャルワーカーとしてのアセスメント等も点検できる機会であった。」等の声が聞かれた。

(4) 外国人支援のためのソーシャルワーク【自主事業】

6名の受講生が参加し、6月～9月の土曜日の午後に月1回、4回の講義を開催した。4名に認定医療社会福祉士のポイントを発行した。各回、講義テーマの分野に長けた講師へ依頼した。各回のテーマおよび講師は以下の通りである。受講生からは、「どの講義も新鮮で学んでいる実感があった」、「思いだけでなく確かな知識を身につけてこそその支援だと思った」、「外国人患者さんとの関わりでは、一つでも多くの事例を知って、一つでも多くの成功例を知ることが良い支援につながると感じた」等の声が聞かれ、各講師の講義についても非常に高い満足度が得られた。

第1回

テーマ：外国人の生活課題とMSW（外国人の生活課題を深く理解する）

講師：特定非営利活動法人移住者と連帯する全国ネットワーク理事 大川昭博

第2回

テーマ：外国人と医療（MSWとしての支援や利用できる制度を学ぶ）

講師：東京医科大学病院総合相談・支援センターソーシャルワーカー 藤平輝明

第3回

テーマ：外国人に関する法制度（外国人に関する法制度や関連する機関等について学ぶ）

講師：さつき法律事務所 代表弁護士 大貫憲介

第4回

テーマ：支援の実際（事例検討のほか、MICの立ち上げ、社会資源開発の経緯について知る）

講師：横浜市菅田地域ケアプラザ所長 ソーシャルワーカー 松野勝民

(5) SW実践力を鍛える ～アセスメントに根拠をもつ～【自主事業】

【講師】佐原 まち子（一般社団法人WITH医療福祉実践研究所代表理事）

昨年度から開講した講座。昨年度は1回3時間、計5回で行ったが、講義内容に連続性を持ちにくく、今年度は休憩をはさみ、計5時間、全3回に変更し、家庭クラブ会館で開催した。11月～1月までの間、月に1度日曜日の開催とし、18名の参加者が受講した。午前中の2時間程度は、講師による講義を行い、午後の3時間程度は午前中の講義に基づ

き実践するスタイルをとった。1回目は事例をもとにエコマップ及びタイムラインを描くことから、アセスメントを書く演習。2回目は情報収集の技法を学び、ロールプレイングを中心に面接を効果的に進める演習。3回目はインシデントプロセス法を学び、事例を用いて情報収集するロールプレイング、それをもとに決められた時間のなかでエコマップ及びタイムラインを作成し、アセスメントを行う演習を行った。

受講生からは「エコマップを利用すると誰もが瞬時に状況を把握することが出来、活用していきたい」、「限られた面接時間の中で、情報を集約するのにエコマップはとても効果的であり、アセスメントをしていくうえでタイムラインを設けることは、とても整理しやすくなった。」「多職種にエコマップを見せて説明をしたところ、医師から活用したいとマップの提供を申し出てもらえるなど短時間で多職種へ説明するのにとても役に立った。」など、活用することができれば短時間で効果的な手法という意見が多くみられたほか、「面接における質問法の活用により、マップを肉付けしていくスキルも同時に学ぶことができ、場面に応じて使い分けていきたい」といったアセスメントにつながる質問のスキルの向上を願う感想も多かった。その一方で「手法を取り入れることに頭が一杯となり、すぐに実行することが難しい。継続して訓練していく必要がある。」、「エコマップを作成することに集中してしまい、面接がうまくいっていないように感じた。そのため、まずは今までのやり方のまま面談を行い、その後エコマップとタイムラインを作成することを繰り返し、いずれは描きながら面談ができるようにしていきたい。」といった意見も多く、言葉を用いない表現の難しさには訓練を要すると感じる意見が多かった。事例をもとに、質問を繰り返して、全体像を把握していくことからアセスメントを高めていくことは、ソーシャルワーク実践を再考する場となる研修だったと思われ、休日に集中して学べること、昨年度の連続性という点でも理論と実践をあわせて1日で学べるスタイルは好評であった。

第1回 エコマップとタイムラインによるアセスメント方法

第2回 面接のスキルを整える

第3回 インシデントプロセス法による事例検討からアセスメントを学ぶ

(6) 多問題を抱える家族の理解と支援【自主事業】

【講師】山本 由紀（遠藤嗜癖問題相談室室長／上智社会福祉専門学校）

今年度初めて開講した講座であり、全5回の講義を1～3月までの4日間で開催し、12名の参加者が受講した。より実践的な学びになるよう、受講生には事前課題として指定書式で事例提出をしてもらい、毎回講師による講義とともにテーマに沿った事例を選出しワークを行った。受講生からのアンケート（回収率75%）では100%の方が講座内容を「満足」と回答し、「講義内容と事例がリンクしていて、とてもわかりやすかった」「とても専門性の高い講座だと思う。一般的な講座（他団体など）で、ここまで深い内容のものはなかなかなく、参加される受講生も意識の高い方ばかりで、自分を高められると思う」「多問題を抱えるご家族、たくさんいると思う。この講座を通して、日々のモヤモヤが少し晴れて、時にストンと胸に落ちてきたり、気持ちが楽になったりした。同志と一緒に考える、よい機会かと思えます。是非お勧めしたい」等のコメントが聞かれ、多問題を抱える家族を家族療法の視点でアセスメントすることを学ぶとともに、事前に提出頂いた事例を活用したことで、より実践的な学びにつながる講義となった。しかしながら会場に関しては三鷹会場で開催したため「出来れば、新宿付近での開催をお願いしたい」という意見が多数聞かれた。より多くの会員が参加できるよう、来年度は開催地を再考していく。

- 第1回 家族の状態についての家族システム論からの理解
- 第2回 家族の形が変わるとき～家族への分離介入
- 第3回 支配・被支配～DVがある家族
- 第4回 多問題家族～精神疾患と不適切介護
- 第5回 多問題家族～発達障害（知的障害含む）とインボランタリーなクライアント：
SOSなしキーパーソンなしワーカービリティなし

3. プログラム検討委員会

協会の研修事業の体系、内容などを検討する諮問機関である。当協会で開催した研修に関しては、日本医療社会福祉協会へシラバスを提出し、認定医療社会福祉士のポイント承認を得る作業を行った。また、平成31年度の研修について検討、協議を行なった。

- 【委員】伊藤 正子（法政大学）
井上 歩（河北リハビリテーション病院）
内田 美沙子（田無病院）
大宮 謙一（荏原病院）
田上 明（東京都清瀬喜望園）
原田 剛（新山手病院）
平井 隼人（西東京中央総合病院）
藤井 かおる（京葉病院）

【定款第3号事業】

3) 医療ソーシャルワークの必要な調査研究に関する事業【自主事業】

1. 医療福祉問題研究委員会〔自主事業〕

当委員会は、「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャルアクションを行なうこと」を目的に活動を行う。理事会が承認する専門部会である。

(1) ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い

8回目の集いは、9月29日(土)「AYA世代でのがん罹患とその後の人生への影響」と題し講義形式で行った。

国立がん研究センター／がん対策情報センター、がん医療支援部研究員の山谷 佳子氏より、患者としての自分自身の体験から、小児・成人とは異なる社会生活における課題とさまざまな想い、医療現場やMSWに期待することなどについてお話頂いた。

平成31年2月2日(土)には理事や協力員により、今までの成果物として作成予定の視点マップについて打ち合わせを行った。

(2) MSWによるセクシュアル・マイノリティへの支援患者申出療養制度 部内にて検討し、平成30年度にて終了とした。

(3) 小児医療問題専門小委員会

委員会の開催と平成31年2月18日に北療育医療センターの見学を実施した。

(4) 医療事故調査制度

平成31年3月22日(金)「医療事故調査制度の現状と課題—ソーシャルワーカーに期待するもの—」と題し、イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院医療安全対策室、患者・家族と医療をつなぐNPO法人架け橋 理事長の豊田郁子氏にご講演を頂いた。制度創設以降の動きや自身の経験を含めMSWに期待すべき役割について学ぶ機会となった。

(5) 患者申出療養制度

委員会を開催し、平成30年度にて終了とした。

【定款第4号事業】

4) 刊行物の発行に関する事業

1. 会員向けニュースレター「東京MSW」の発行(各号1,000部)

会員向けニュースレター「東京MSW」345号(5月)、346号(8月)、347号(11月)、348号(2月)を発行し、会員相互の情報共有、新しい情報の提供を行うとともに、協会活動を発信する媒体として機能するような内容の充実に努めた。

2. 機関誌『医療ソーシャルワーク』67号の発行(1,250部)

協会機関誌である『医療ソーシャルワーク』67号(3月)を発行した。